

全国の火山活動状況(1986年4月～6月)

気象庁地震火山部
地震火山業務課火山室

気象庁が常時観測を実施している17火山とその他の火山について、1986年4月以降6月末までの活動状況を、この期間内に得られた情報などを基に要約した。

全国火山活動概況を第1表に、火山情報発表状況を第2表に示す。

第1表 全国火山活動概況(1986年4～6月)

Table1. Volcanic Activity in Japan

(From Apr.1986 to June 1986)

Volcano	Month		
	4	5	6
Sakurajima	▲	▲	▲
Izu-Oshima	●		
Kusatsu-Shiranesan			●
Fukutoku-Oka-on-Ba	●	●	●

▲: Eruption ●: Anomaly

第2表 火山情報発表状況(1986年4月～6月)

火山名 情報	桜阿浅伊雄十樽有北吾安磐那草三雲霧 海達津 豆阿勝前珠駒妻太梯須白宅仙島 蘇間大寒ヶ良根 島山山島岳岳山山岳山山山岳山島岳山																	
	定期	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
臨時	7			2														1
火山活動																		

桜 島（鹿児島地方気象台）

月別の活動の推移を示したのが第3表である。

第3表 桜島 火山観測資料

月	1986/4	5	6
噴 火 回 数	60(55)	8(8)	13(12)
地 震 回 数	3,986	2,649	3,787
微動継続時間合計(h)	93.2	326.0	319.4

()内：爆発回数 地震回数：B点(地震+微動)

6月4日07時12分に発生した火山性地震は、島内(黒神町一帯)で人体に感じられた。

火山活動は、3月下旬から4月にかけて活発化し、4月の月爆発回数は今年に入ってから最高となったが、5～6月にかけて爆発回数は減少した。

4月5日14時49分と24日15時01分の爆発による被害はなかったが、空振は延岡市や屋久島にまで達し、都城市や宮崎市方面にも降灰があった。

主な爆発とそれに伴う被害状況は次のとおり。

- 4月16日05時37分の爆発は、爆発音・空振ともに大きく、火口に最も近い古里地区を中心に、ホテルや学校の玄関ドアガラスが割れた。また、空振は宮崎市と日南市でも観測された。
- 4月23日07時32分と12時07分の爆発は、噴煙と噴石を多量に噴出し、火口から東側に4～5 kmの桜島口付近で、火山礫により走行中の車8台のフロントガラスが破損した。
- 5月6日14時34分の爆発は、爆発音・体感空振は伴わなかったが、多量の噴石が4合目まで飛散し、3ヶ所で山火事が発生した。
- 6月10日11時00分の爆発により噴石が8合目まで飛散し、強い上層風により火山礫が島の南西麓にある持木町や野尻町に降下し、走行中の車など3台のフロントガラスが破損した。
- 6月12日10時24分の爆発による噴煙は、強い上層風により鹿児島市中心部に流れ、硫黄臭を伴った砂混じりの火山灰を多量に降らせ、交通機関に大きな影響を与えた。
- 6月24日09時12分の爆発により噴石等が多量に噴出され、火口から東に約5 km離れた黒神町や高免町では、直径2～3 cmの火山礫とともに、5～6 cmの噴石も落下し、車8台のフロントガラスが破損したほか、事務所や住宅のスレート屋根等数軒が破損した。

伊豆大島（大島測候所）

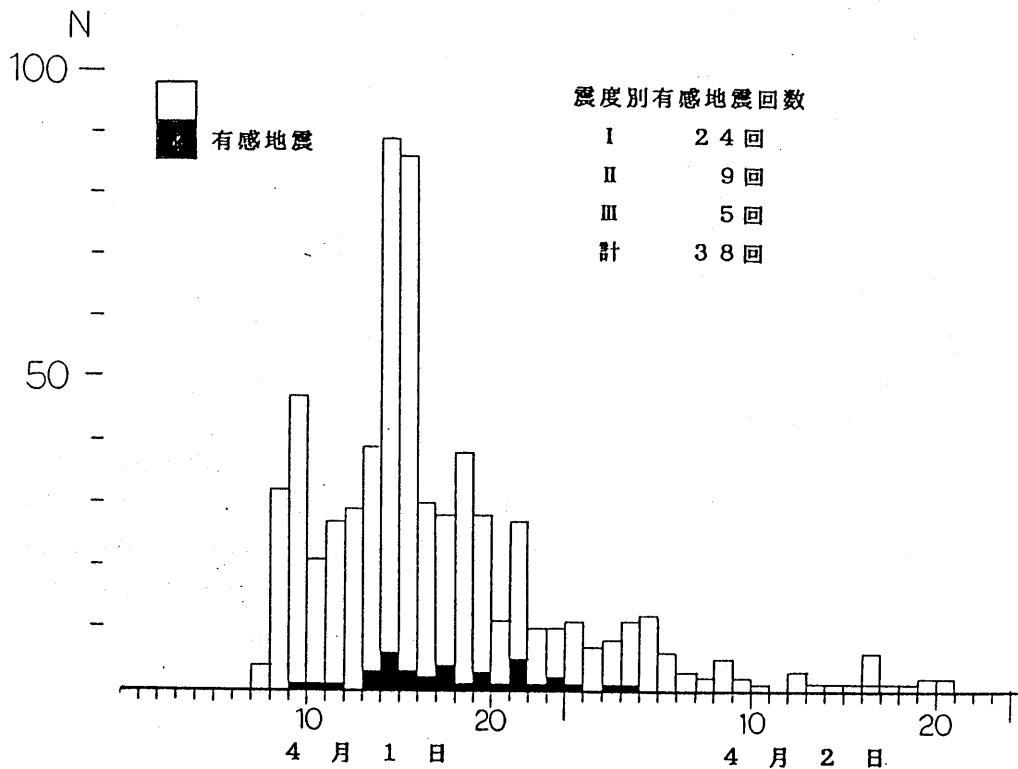
月別の活動の推移を示したのが第4表である。

第4表 伊豆大島火山観測資料

観測点		月		
		1986/4	5	6
A	火山性地震	165	8	10
	火山性微動	0	0	0
B	火山性地震	273	15	12
	火山性微動	0	0	0
C	火山性地震	695(38)	24	21(1)
	火山性微動	0	0	0
D	火山性地震	57	3	8
	火山性微動	0	0	0
E	火山性地震	44	4	7
	火山性微動	0	0	0

()内有感地震回数

4月1日から2日にかけて島内北部及びその海域で火山性地震が群発した。その時間別推移及び震度別有感地震回数を示したのが第1図である。現地観測を4月1日、8日、5日7日、6月4日に実施したが、火口には異常は認められなかった。



第1図 4月1日～2日の群発地震の推移

浅間山（軽井沢測候所）

月別の活動の推移を示したのが第5表である。

第5表 浅間火山観測資料

観測点		月		
		1986/4	5	6
A	火山性地震	23	18	28
	火山性微動	0	0	0
B	火山性地震	336	271	352
	火山性微動	0	0	0
C	火山性地震	200	198	196
	火山性微動	0	0	0
D	火山性地震	22	14	23
	火山性微動	0	0	0
E	火山性地震	125	86	116
	火山性微動	0	0	0

A点における火山性地震の最大振幅は、4月0.3 μ 、5月0.1 μ 、6月0.5 μ 以下で、各観測点における地震回数にも大きな変化は認められなかった。

遠望観測の結果を示したのが、第6表である。

第6表

	噴煙の色	噴煙量3 の日数	噴煙の 月最大高度
4月	白色	4	1,200 m
5月	白色	5	900 m
6月	白色	2	800 m

5月28日に火口観測を実施した。その結果は次のとおり。

火口内は噴煙が薄く立ちこめていたが量は少なく、小諸口（火口縁）では硫化水素臭を感じた。噴気箇所は前回観測時同様、主に4箇所から噴出しており、噴出力が若干強まったためか、ゴーというジェット機状の噴出音が連続的に開かれた。また、火口底東側中央部がすり鉢状に深くなっており、底部に崩壊による岩石が堆積していた。すり鉢状の東側上部から白色の噴気が出ており、この噴気箇所の最高温度は105℃であった。（赤外線放射温度計による）。また、火口底には硫黄の付着が認められた。

阿蘇山（阿蘇山測候所）

月別の活動の推移を示したのが第7表である。

第7表 阿蘇山 火山観測資料 (A点)

月	1986/4	5	6
地震回数	46	109	67
孤立型微動回数(0.5 μ 以上)	856	475	162
連続微動平均振幅 (μ)	0.2	0.2	0.2

火山性地震は、5月に火口付近を震源とする最大振幅1 μ 以下のものが多発し、6月13日18時24分には北側外輪山を震源とする、測候所で震度Iの有感地震を含む地震が数回観測された。孤立型微動の発生回数はこの期間順次減少した。

中岳第1火口の現地観測の結果は次のとおり。

火口底の湯だまりは、全期間をとおして全面湯だまりとなっているがこの期間湯量の減少が続き、4月には火口底の一部に干潟状が現われ、5月6日には新しい噴気孔から弱い鳴動が聞かれたが、19日から20日にかけての雨で噴気孔は水没し、鳴動も聞かれなくなった。6月8日火口の西側から北側にかけて、湯だまり周辺部が干潟状となり、東側火口壁下に新しい噴気孔が開口し、青白色ガスを噴出、鳴動が開かれたが、25日以降の雨により27日は水没し、鳴動も聞かれなくなった。湯だまり内の土砂噴出は中央部及び周辺部で全期間をとおして続き、高いもので4~6mが観測された。

赤外線放射温度計による湯だまり表面温度の観測結果は次のとおり。(月の最高値℃)

月	1986/4	5	6
温度	64	63	72

雌阿寒岳(釧路地方気象台5月30日火山情報)

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回 数	0	0	6	9	13	36

釧路地方気象台からの遠望観測では、噴煙量・色・高度等に変化は認められない。

現地観測を5月28~29日に実施した。結果は次のとおり。

(1) ポンマチネシリ(本峰)

第4火口の噴気活動は依然活発な状態が続いているが、量・噴気温度及びその他の火口には、特に大きな変化は認められない。

(2) 中マチネシリ火口群

個々の噴気孔には若干の変化が認められるが、火口全体には大きな変化は認められない。

十勝岳（旭川地方気象台 6月26日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	8	6	14	15	10	12

火山観測所からの遠望観側では、62-I、62-II火口は活発な噴煙活動を続けているが、噴煙量には変化はない。62-I火口の一部で時々淡青色の噴煙が観測された。

現地観測を6月24～25日に実施した。結果は次のとおり。

- (1) 62-I、62-II火口はともに活発な噴気活動を続けている。62-I火口では部分的に淡青色の噴煙が観測され、地中温度も300℃以上の高い状態が続いている。
- (2) 旧火口（安政火口）では、大小多数の噴気孔があり、活発な噴気活動を続けている。
- (3) 62-III火口北西壁に今回の観測で極く弱い噴煙が認められ、火口東側で地温のやや上昇した所が認められた。
- (4) その他、大正火口・振子沢・湯の沢では、弱い噴気活動を続けている。

樽前山（苫小牧測候所 5月30日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	1	2	2	2	6	3

苫小牧市からの遠望観測では、風の弱い日に一時的に噴煙が数100mに上昇したが、特に異常は認められない。

現地観測を5月28～29日に実施した。結果は次のとおり。

各観測点とも前回（昨年10月3～4月）と比べ、特に変化は認められない。

有珠山（室蘭地方気象台 5月23日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

	1986/1	2	3	4	5	6
回数	5	4	8	8	3	6

室蘭地方気象台からの遠望観測では、有珠山、昭和新山とも噴煙には大きな変化は認められない。

現地観測を5月21～22日に実施した。結果は次のとおり。

(1) 有珠山

銀沼火口、I火口および小有珠南東斜面では活発な噴気活動が続いており、噴気温度が600℃以上

の所がある。その他の外輪山や北屏風山の地熱地帯の噴気及び周辺には変化は認められない。

(2) 昭和新山・四十三山

各観測点とも前回(昨年10月8～9日)と比べ、特に変化は認められない。

北海道駒ヶ岳(森測候所 5月30日火山情報)

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	4	3	0	4	1	1

森測候所からの遠望観測では、噴煙には大きな変化は認められない。

現地観測を5月28～29日に実施した。結果は次のとおり。

各観測点とも前回(昨年10月3～4日)と比べ、特に変化は認められない。

吾妻山(福島地方気象台 6月17日火山情報)

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	5	1	12	14	11	41

5月に入り火山性地震が増加したが、この中には6月中・下旬福島・山形県境付近に発生した地震が37回含まれている。

福島地方気象台からの遠望観測では、噴煙量は少量であった。

現地観測を6月10～11日に実施した。結果は次のとおり。

各観測点とも前回(昨年10月31日～11月1日)と比べ、特に変化は認められない。

安達太良山(福島地方気象台 5月29日火山情報)

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	2	1	2	7	3	5

現地観測を5月19～22日に実施した。結果は次のとおり。

全般に、噴気活動や地熱に特に変化は認められない。昨年新たに認められた沼ノ平西側登山道付近の地帯では、地熱の高い状態や噴気活動が続いており、その南側に新たな弱い噴気が認められた。

磐梯山（若松測候所 6月12日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	9	2	15	19(1)	37(1)	26

()内有感地震回数

4月29日から5月5日にかけて会津若松南西部で地震が多発し、若松測候所では4月30日震度Ⅱ、5月4日に震度Ⅰを観測した。

現地観測を6月4～5日に実施した。結果は次のとおり。

各観測点とも前回（昨年10月3～4日）と比べ、特に変化は認められない。

那須岳（宇都宮地方気象台 5月30日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	70	12	48(1)	35	116	92

()内有感地震回数

那須岳周辺の地震活動は昨年9月ころから活発化し、今年に入ってから多発する傾向が続いている。3月12日には那須岳北側山麓で地震が多発し、観測所では震度Ⅱを1回観測した。

那須岳火山観測所からの遠望観測では、噴煙には特に変化は認められない。

現地観測を5月23～24日に実施した。結果は次のとおり。

殺生石地区の火山ガス濃度が濃くなり、噴気量も多くなっているが、他の観測点では前回（昨年10月3～4日）と比べ、特に変化は認められない。

草津白根山（前橋地方気象台 6月13日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	28	23	38	31	44	96

1月以降火山性地震が増加の傾向にある。

湯釜の南約1kmの逢の峰山頂に火山遠望隔測装置が新設され、NTT回線により前橋地方気象台に湯釜を中心とした画像が送画されるようになり、4月1日正式運用となった。同装置による遠望観測結果では、湯釜内には噴気はなく、周辺部にも特に変化は認められない。

現地観測を6月3～4日に実施した。結果は次のとおり。

各観測点とも前回（昨年10月14～15日）と比べ、特に変化は認められない。

三宅島（三宅島測候所6月11日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	1	4(1)	3	5	16	4

() 内有感地震回数

2月14日の三宅島付近の地震では、測候所で震度Ⅱを観測した。

現地観測を6月9～10日に実施した。結果は次のとおり。

新鼻にできた火山砕屑丘の地中温度の高温部は、今回は確認されなかった。その他の観測点についても前回（3月6～7日）と比べ、特に変化は認められない。

雲仙岳（雲仙岳測候所4月10日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	50(1)	39	33	30(1)	33	40

1月1日と4月9日に測候所で震度Ⅰの地震を観測した。

現地観測を4月8日に実施した。結果は次のとおり。

各観測点とも前回（昨年12月6日）と比べ、特に変化は認められない。

霧島山（鹿児島地方気象台5月10日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1986/1	2	3	4	5	6
回数	9	13	12	18	5	4

4月28日牧園町付近で有感地震を3回含む地震が多発した。

鹿児島地方気象台からの遠望観測では、噴煙は観測されなかった。

現地観測を御鉢火口と霧島山周辺については4月21～22日、新燃岳については5月8日に実施した。結果は次のとおり。

新燃岳火口内の第6噴気孔の噴気温度は前回（昨年12月19日）と比べ若干下がったが、その他の観測点には、特に変化は認められなかった。

海底火山（海上保安庁水路部の情報による）
福徳岡の場

変色水視認（4月16日，5月19日，6月18日）